

日本財団遺贈寄付サポートセンター

活動報告書

2018年度



「思い」を遺す遺贈へ

私たちは、貴方の「思い」を遺言書で確実に「カタチ」に遺し、人生の締めくくりに社会貢献をしていただくためのサポートをしています。そして、人生の締めくくりを安心して迎えていただくことが、私たちの願いです。

遺贈とは、贈る側にも贈られる側にも笑顔をもたらす、未来につながる「最後の社会貢献」なのです。

遺贈寄付サポートセンターからのご挨拶

向暑の砌、皆様にはお障りなくお過ごしのことと存じます。

日本財団遺贈寄付サポートセンターは、平成28年4月の開設以降

「自分の財産を社会貢献活動のために遺したい」という方々のご相談を受けて参りましたが、

最近ますます遺贈への関心が高まってきていることを実感しております。

こうしたご要望に応え遺贈寄付の普及を図るために実施いたしました、

昨年度の活動をまとめましたのでご覧頂きたく存じます。

「思い」を遺すことは自分の生きた証を遺すことでもあります。

遺贈寄付が社会に役立つ世の中になるよう、私たちはこれからも

引き続き皆様の「思い」を伺って参ります。人生の集大成に社会貢献を

することに興味をお持ちでしたら、どうぞご遠慮なくお問合せください。

皆様のお役に立てるよう、スタッフ一同誠心誠意務めて参りますこととお約束いたします。

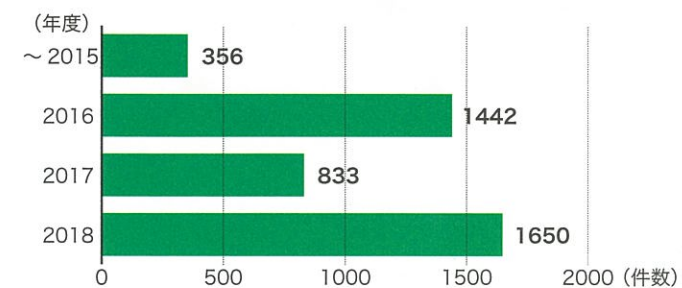
2019年初夏

遺贈寄付サポートチーム
チームリーダー

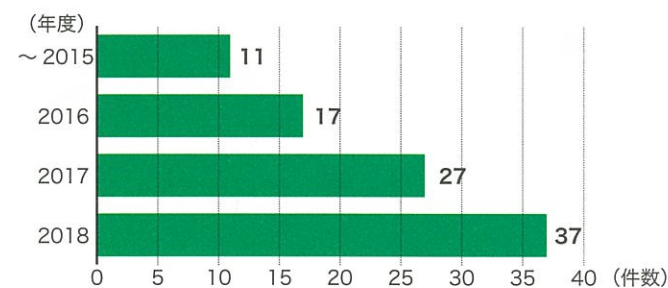
木下園子

「思い」の詰まる寄付受入実績

問合せ件数推移



遺言書受領数



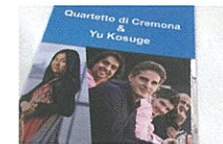
遺贈寄付受入実績

2015年度まで	遺贈寄付 3件	247,029,582円	相続寄付 1件	30,000,000円
2016年度	遺贈寄付 2件	44,576,287円	相続寄付 2件	1,500,000円
2017年度	遺贈寄付 4件	214,604,497円	相続寄付 7件	28,000,000円
2018年度	遺贈寄付 4件	95,722,105円	相続寄付 4件	12,000,000円

日本財団ひなげしの会イベントご招待

日本財団ひなげしの会は、日本財団への遺贈を決めてくださった方の会員サービスです。日本財団関連のイベントへご招待を行いました。

2018年 7月 2日 日本音楽財団音楽会 クレモナ・カルテットと小菅優
@浜離宮朝日ホール



クレモナ・カルテットと小菅優

2018年 8月 30日 日本太鼓財団主催 第3回 大学太鼓フェスティバル
@文京シビックホール



第3回 大学太鼓フェスティバル

2018年 9月 8日 ソーシャル・イノベーション・フォーラム
@青山学院大学

2018年 11月 3日 日本太鼓財団主催 第2回浅草太鼓祭
@墨田公園山谷堀広場

2019年 3月 5日 日本音楽財団音楽会 竹澤恭子&江口玲 デュオ リサイタル
@王子ホール

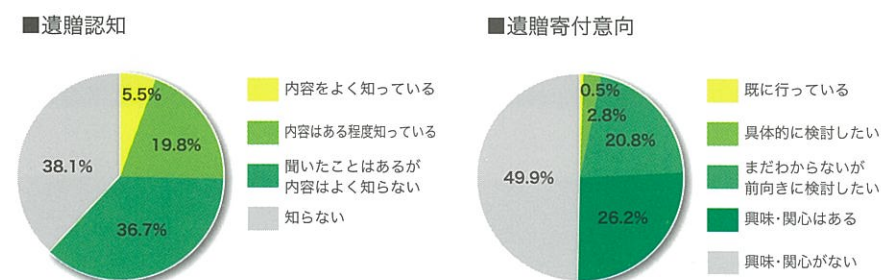


ソーシャル・イノベーション・フォーラム

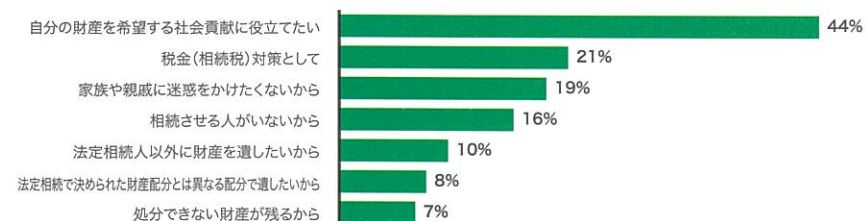
2019年 3月 18日 夢の奨学金事業 2018年度奨学生 活動報告会
@日本財団

アンケート調査実施

世帯金融資産2,000万円以上の40～70代男女2,000人を対象に2018/12/18～12/21インターネット調査を実施。遺贈寄付に興味関心がある、検討している、もしくは既に行っている「遺贈潜在層」が全体の5割程度を占めた。遺贈に対する意識の高まりが感じられます。



■遺贈寄付意向の理由



遺贈寄付意向の理由には、「社会貢献」をあげる人も多い。そのほか「税金(相続税)対策」や「家族や親戚に迷惑をかけたくない」などさまざまな事情が見られる一方で、実際に「遺贈寄付」の具体的な検討段階にある人は全体の3%程度に留まっており、「遺贈寄付」のハードルは高い。手間や手続きの難しさ、遺贈したお金が自分の希望する社会貢献に使われるのかという不安、どこに相談すればよいのかという情報の不足などが足かせとなっている

地方出張相談会の実施



大阪(2019年1月27日)

周知・メディア掲載実績

新聞広告

2018年10月3日、5日
読売新聞・毎日新聞
2018年12月25日
読売新聞・毎日新聞
2019年1月18日、19日
読売新聞・毎日新聞・産経新聞
2019年3月18日、19日、27日
読売新聞・毎日新聞・産経新聞・東京新聞

雑誌タイアップ記事(企画広告)

2018年 4月25日発売 週刊文春
2018年 8月10日発売 文藝春秋
2018年11月 1日発売 週刊文春
2018年11月28日発売 週刊ダイヤモンド別冊
2018年12月13日発売 週刊文春
2018年12月11日発売 週刊朝日
2018年12月22日発売 AERA
2019年 2月 9日発売 文藝春秋
2019年 3月18日発売 ソナエ
2019年 3月19日発売 週刊朝日

メディア掲載

2018年 4月 1日 日刊ゲンダイデジタル
2018年 4月12日 くらしとお金の経済メディア LIMO
2018年 4月25日 中日新聞
2018年 5月18日 毎日新聞(大阪版)
2018年 5月18日 サンデー毎日
2018年 5月22日 毎日新聞(東京版)
2018年 5月28日 読売新聞(西日本版)
2018年 8月 6日 北海道新聞
2018年 8月11日 観光経済新聞(東京)
2018年 8月14日 J-CASTニュース
2018年 9月21日 中日新聞
2018年11月 8日 日本経済新聞
2018年12月 3日 ソナエonline
2018年12月 3日 ZAKZAK(タリフジ)
2018年12月 3日 公募ガイドあつまー
2018年12月 9日 公募ガイド(2019年1月号)
2018年12月17日 北海道新聞
2019年 1月16日 毎日新聞
2019年 1月22日 産経新聞
2019年 1月16日 終活読本ソナエ(1月号)
2019年 3月18日 終活読本ソナエ(3月号)

遺贈基金を活用した 事業実績



日本財団難病児支援対策の一環として、一般社団法人「星つむぎの村」へ 3件の相続財産のご寄付の6,500,000円を、移動型プラネタリウム投影機器の整備及び鑑賞会の開催に活用

自由に野外鑑賞を行うことが難しい子どもたちがいます。ホンモノの星空が見られない子どもたちに、満天の星空や宇宙を届ける、それが、一般社団法人「星つむぎの村」が実施している移動型プラネタリウム投影機の訪問事業です。美しい星空で心を開放するととも

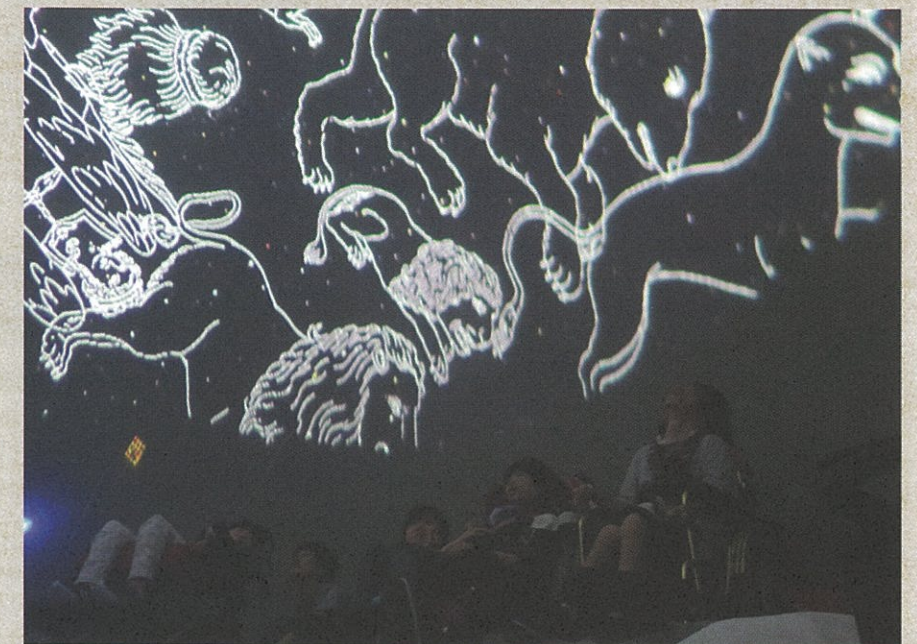
に、星を眺めながら科学を研究したいと思う子供たちの意欲を育み広大な宇宙に生きる奇跡を実感できるプログラムです。

このたびの支援で実現した、鑑賞会にお邪魔しました。全国を飛び回る「星つむぎの村」が今回星空を届けるのは、

埼玉県立越谷特別支援学校に通う子どもたちです。先生たちに案内されて体育館にやってきた子どもたちの前に現れたのは、普段の体育館にはない直径7メートルものドームです。日本財団がお預かりした相続財産からのご寄付を活用して「星つむぎの村」が購入したものです。

これはなんだろう？とちょっと不安そうな、でもどこかワクワクしたような子どもたち。いよいよ、ドーム内に入り見上げるものの星はあまり見えない。なぜだろうと思っていると、「みんなが普段見ている空は、街頭の光があるから、星が見えていないんだよ。でもそこに星はあるの。いまから街頭の光を消すから、みんな目をつぶってね」との声。目をつぶり、カウントダウンに合わせて目を開くと満点の星空が目の前に現れ、子どもたちは「わあ」と、歓声を上げました。

越谷の夜空から始まったプラネタ



リウムは、星座の話、太陽系の話、天の川銀河の話、宇宙全体の話と進み、再び越谷の夜空に戻りました。ナレーションの声に引き寄せられ、気がつけば騒がしかった子どもたちが静かになって、星空を見つめていま

した。ドームの中に朝が訪れるとともに、プラネタリウムの時間も終わり、明るい体育館に出た子どもたちの笑顔には、一夜の見果てぬ夢を見た感激があふれていました。

遺言書作成相談～遺言書作成～遺贈寄付の実施

2018年3月、遺言書作成相談の連絡があり、同年5月、ご本人と面会。ご本人は、癌の治療のために入院間際でしたが、体調の良い日を選んでお目にかかりました。

話を伺うと、遺贈寄付サポートセンターの「遺贈は人生最後のお買い物」という考えに賛同されて、これこそ思いの

かなう遺産の遺し方だと思ったとのこと。

認知症でホームに入っている母親の介護に携わるスタッフの献身的な様子に感じ入り、寄付の使途はヘルパー養成の支援に使ってほしいとの希望でした。そこで、株式を換金したものを日本財団に遺贈し、その他一切はホームの母親に遺す、と記載した遺言書を作成

されました。また、ご本人が信頼する友人の税理士に、遺言執行者と母親の成年後見人を依頼されました。

その後、遺言執行者とたびたび連絡を取っていましたが、年が明けた2019年2月、遺言執行者から、「遺言者様が逝去され、遺言通り株式を換金した5,400万円余りの遺産を

遺贈寄付したい」との連絡をいただきました。

余りに早い別れではございましたが、いただいたご寄付は、間違いなく日本財団のホスピスナースの支援のために活用させていただきます。



相談事例紹介

ゆいごん川柳入選作品一覧

2018年12月4日から2019年1月5日(「遺言の日」に制定)に公募。10,724作品の応募があり、その中から選ばれた栄えある大賞1作品、入賞3作品、佳作6作品です。

大賞 あわてずに ゆっくり来いと 妻に宛 (茶唄鼓さん・広島県)

【講評】自分の死期を予測し遺言を書いたのでしょう。黄泉から妻に呼びかけているような作品です。ゆっくりだから僕が亡くなっても「長生きしてほしい」との思いやりが感じられる。このような遺言は珍しいです。お金や財産、資産についての遺言が多い中で、妻だけに送る人間愛が感じられる作品です。ひと味違った遺言だと思います。

入賞 下書きを 妻に見つかり 書き直す (間間妻さん・兵庫県)

【講評】遺言は誰もいないところで書くもの。どんな理由かわかりませんが、妻にその下書きが見つかった。慌てて書き直したところを見ると、文の中身はさぞかし妻にとって満足なものではなかったのでしょうか。

入賞 遺言の 父の癖字が 愛おしい (イナバウアーの白兔さん・千葉県)

【講評】遺言を見て、父さんの癖字だとありありとわかる文字でした。思わず愛おしさが溢れてきたのでしょうか。左肩上がりや丸字などその人の癖は直らないそう。これは確かに本人の書いたものだとの証しにもなります。

入賞 遺言を 書いた私が 生き残り (伊藤進さん・山形県)

【講評】遺言は先に逝く人が残る人に書き残すものです。その遺言を書いた人が生き残った。逆の状態となったケース。このような状態はあまりないと思いますが、こんな例もあるということかもしれません。

佳作 遺言に 無口な父の ころろ知る (西みなみさん・神奈川県)

佳作 ゆいごんで 初めて知った 親心 (シャイン・マスカットさん・山梨県)

佳作 五輪見て 万博行って から書くよ (となみさん・埼玉県)

佳作 遺産分け ケンカするなら 寄付するぞ (高木直子さん・東京都)

佳作 遺言を 書いて自分の 本音知る (ひよどりさん・北海道)

佳作 少しだけ 我が儘入れて 夢託す (月日備人さん・神奈川県)

大賞・入賞に選ばれた4作品は、2019年3月4日より期間限定で、東京・名古屋・大阪の3都市の三省堂書店、紀伊國屋書店、リプロ各店舗にて、書店しおりとして配布されました。

ご相談強化期間の実施

この活動報告は、これまで日本財団遺贈寄付サポートセンターにお問い合わせのあった方々にご送付しております。これから、関東ではお盆を迎える時期となりますが、7月15日から7月26日までをご相談強化期間として、ご相談をお受けいたします。

2019年7月16日(火)～7月26日(金) 10:00～16:00 (土・日・祝日は除きます)

尚、上記以外の期間でもご相談をお受けしておりますので、お気軽にご相談ください。相談員一同、皆様からのお電話をお待ちいたしております。

セミナー開催

実施日 ● 2019年9月18日(水) 13時～16時30分(予定)

場所 ● 日本財団2階大会議室(予定)(東京都港区赤坂1-2-2)

講師 ● 行政書士 佐山和弘氏(相続遺言専門行政書士・行政書士さやま法務コンサルティング代表)

内容 ● 【1部】書いてみよう! エンディングノート 【2部】日本一楽しい! 遺言書教室(仮)

参加ご希望の方は、遺贈寄付サポートセンター フリーダイヤルまでご連絡ください。

組織・体制

担当役員

専務理事 前田 晃

事務局

チームリーダー 木下 園子

(准認定ファンドレイザー、ファイナンシャル・プランニング技能士)

相談員

青木 伸夫

佐藤 恵子(終活カウンセラー、ファイナンシャル・プランニング技能士)

中野 実奏(2級ファイナンシャル・プランニング技能士)



顧問

弁護士 鈴木 大輔氏(東京リベルテ法律事務所所属)

お問い合わせ先

☎ 0120-331-531

9:00～17:00 (月～金/土日祝日を除く)

日本財団
遺贈寄付
サポートセンター
THE NIPPON FOUNDATION
LEGACY GIFT SUPPORT CENTER

日本財団 遺贈寄付サポートセンター
107-8404 東京都港区赤坂1-2-2